

情報で人の命を守る

埼玉大レジリエントC

防災・減災フォーラム

埼玉大研究機構レジリエント社会研究センターは、さいたま市のラフレさいたまで、「『情報』で人の命を守る―防災・減災対策の未来のかたち―」をテーマに、「彩の国」市民科学オープンフォーラムを開いた。写真。

センター長の田中规夫教授は台風19号による被害を紹介した上で「いままでのように、川で海まで流しきることが難しくなった。ハード、ソフトの対策を組み合わせて、流域で治水する発想が必要となる。いかに情報を収集し、正しい情報を発信し、判断することが求められる」。埼玉大の山口宏樹学長は「情報、AI（人工知能）、人の命を守る」ことが融合した課題を皆さんとともに考えたい」とあいさつした。



続いて、慶應義塾大環境情報学部の山口真吾准教授が「『情報』で人の命を守る―AIを活用した災害時のSNS情報分析」、同センター客員教授で防災科学技術研究所国家レジリエンス研究推進センター長の岩波越氏が「最新の気象レーダー(MPPARWR)などが生み出す気象リスク情報」、埼玉県県土整備部河川砂防課の樋口佳意主査が「埼玉県土砂災害警戒情報システムの紹介」について解説した。